

支店長の わがまち紹介 第58回



龍ヶ崎市

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとの密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県龍ヶ崎市です。龍ヶ崎支店長が龍ヶ崎市長 中山一生氏にお話を伺いました。

「筑波経済月報」第5号（2013年12月）第5回本コーナーにて龍ヶ崎市を紹介させていただきましたが、改めまして、本市の魅力や特徴についてお聞かせください。

■歴史があり、優秀な企業が数多くあるまち

戦前ですが、本市には軍需工場とそこに働く人々の住宅があり、企業城下町のような雰囲気もあったそうです。現在、その工場用地は日立建機グループ(株)KCM)に引き継がれ、既存のオカモト(株)、大和ハウス工業(株)に加え、平成元年に完成したつくばの里工業団地には、カガミクリスタル(株)、プライムデリカ(株)、日本製粉(株)、(株)クボタなど、数多くの優良企業に進出していただいています。

なかでも、カガミクリスタル(株)はブランド品として、本市のふるさと納税において多大なるご貢献をいただいています。自費で購入するには勇気が要る高級なカガミクリスタルの商品ですが、本市の本社工場で生産している地場産品でもあり、

ふるさと納税の趣旨にも最適です。

また、県では、今年度より「茨城県伝統工芸品」の製造に従事している方のうち、高度な技術・技法を保持する方を「茨城県伝統工芸士」として認定する制度を開始し、カガミクリスタル(株)から独特な技法を持つ優秀な2名の職人が「茨城県伝統工芸士」の認定を受けました。今後、更にブランド力が增强され、地域活性化へつながるものと期待しています。



カガミクリスタル(株)の製品 江戸切子



龍ヶ崎市長
中山 一生氏



龍ヶ崎支店長
鈴木 賢次

■「やたらカッコ良い“市の名前”ランキング」No.1

本市は、「龍」という文字が影響しているのか、昨年のgooランキング「やたらカッコ良い“市の名前”ランキング」において1位を獲得しました。驚きましたが、とても嬉しいニュースでした。

しかし、「龍ヶ崎」の文字について、昔は読みや意味が同じであればどの文字を使ってもよいという大らかな時代が続き、地区名、国や県の施設名、学校名など様々な場所において、「龍」と「竜」、「ヶ」と「ケ」、それぞれが使われており、統一性がありませんでした。近年、パソコンなどが普及したこともあり、文字の統一化を図るべく、本市として、市制施行の際に官報に掲載された「龍ヶ崎」を正式市名といたしました。国や県も含め、今後も様々な場面で働きかけを行い、統一化を図りながら、「龍ヶ崎」をアピールしてまいります。

■文化財などの活用でシビックプライドを高める

江戸時代、龍ヶ崎地区は伊達藩の飛び地で、伊達藩の庇護の下、「県南の雄都」として地の利も活かして、明治・大正・昭和と繁栄を引き継いできました。私は今でも大きな潜在力と、強い優位性があると信じています。しかし、社会経済情勢や時代背景、周辺地域の発展などから閉塞感を感じている市民も多いのではないかと感じています。

そこで、本市では、歴史的・文化的に価値があるものについて、「市指定文化財」の指定や「市民遺産」の認定を行うなど、シビックプライドを高め、市の発展につなげていこうと考えています。たとえば、本市唯一の絵画の国指定重要文化財である「絹本著色十六羅漢像」は、繊細な描線で謹直に描かれた絵画で、服飾に見られる諸色金泥を用いた精巧な文様が特色の16幅そろった羅漢図

として、美術的価値が高く評価されています。県で大切に保管されているためなかなか観ることができませんでしたが、茨城県立歴史館の「茨城の宝展」において初めて目にした時、その素晴らしさに「これは模写してでも、市民の目に触れるような形にしなくてはならない」と感じました。そのため現在模写の複製を進めており、年に4幅ずつ4年かけて16幅全て模写していく予定で、順



絹本著色十六羅漢像

次公開するのを楽しみにしています。

また、本市の大切な歴史伝統文化として「撞舞」があります。現

在は「国選択無形民俗文化財」ですが、今後は「撞舞」が行われる龍ヶ崎八坂祭礼も併せて、国の指定を目指すプロジェクトを考えています。

■牛久沼畔の道の駅で本市をアピール

牛久沼は水と緑が豊かで、周囲に美しい田園風景が広がる素晴らしい場所です。冬の季節、空気が澄んでいれば、富士山の頂上に日が沈む「ダイヤモンド富士」を観ることができます。また、反対側には筑波山も望むことができます。

現在、本市の玄関口ともいべき国道6号線沿いの、この牛久沼の水辺に、道の駅を整備しています。意外と思う方も多いと思いますが、茨城を南北に縦断する大動脈の1つである国道6号線沿いに、東京都から福島県に入るまで、道の駅はありませんし、県南ブロックにも一つもありません。

そこで本市では、牛久沼の自然と水辺の風景を最大限に活かした本市ならではの道の駅を目指し、広域的な視点も重視して、都心から茨城県に入り、そこから県内各地に足を伸ばしてもらうためのゲートウェイとしての役割を担えればと考えています。

茨城県は、世界遺産などの目玉となるような名所がないと言われますが、綺羅星のごとく魅力的な場所が県内全体に散りばめられています。そのような場所を回遊してもらう意味でも、本市が整

備する道の駅を拠点として足を伸ばしてもらい、茨城県全体の観光の活性化につなげることができればと考えています。



牛久沼では、冬にダイヤモンド富士も

■「龍ヶ崎市駅」で本市をアピール

現在、JR常磐線の駅名改称を進めています。龍ヶ崎ニュータウンに移り住んできた方の中には、なぜ最寄りの駅が自治体名ではないのかと素朴な疑問を持たれた方が多かったとのこと。駅名に「龍ヶ崎市」という自治体名が入れば、本市にとっては大看板となりますので、その効果を最大限に活かしてまいります。一方で、関東鉄道の駅を「佐貫駅」として残すなど、佐貫の地名も大切にしながら、駅名への愛着を龍ヶ崎市民全体で分かち合い、市民の一体感の醸成につなげていければと考えています。

また、JRの駅にも近い道の駅の整備と、駅名の改称を同時に進めることで、本市のプロモーションとして、「龍ヶ崎」を発信していきたいと考えています。

■スポーツでまちの活性化へ

実はこの牛久沼、トライアスロン日本チャンピオンでもある流通経済大学の田山先生に、トライアスロンに適していると太鼓判をいただきました。また、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックでは、都心に近いというメリットもあり、カヌーなど水上競技の練習地としても注目されています。

また、事前キャンプの取り組みも進め、キューバ及びオセアニア地区(南太平洋の島嶼諸国)の柔道、タイの陸上競技が決定しています。柔道前フィジー代表のナウル選手が流通経済大学に在籍している縁もあり、フィジーに関しては、ラグビーなどさらに協力関係を築くことができなにか模索中です。

流通経済大学は、上述の通り本市にとっては大きな存在です。大学からも日本代表選手が出ることを期待していますが、本市出身で日本代表を期待されるアスリートは他にもいます。

ボルダリングでワールドカップチャンピオンを数回獲得している野口啓代選手も本市出身で、スポーツライミングで日本代表を目指しています。先日、本市の総合体育館「たつのこアリーナ」にボルダリングウォールが完成しました。オープニング記念イベントには野口選手にもご参加いただき、母校八原小学校の児童たちとボルダリングを通して交流をしていただきました。



野口選手と八原小学校児童たちとの交流

また、愛宕中学校出身、サッカーの中山雄太選手は、日本代表入りが確実視されています。さらに、城南中学校出身で、いまや、やり投げ日本女子の第一人者に成長した齋藤真理菜選手も、昨年大学生のオリンピックと言われるユニバーシアード大会で銀メダルを獲得し、日本代表を目指し活躍中です。

来年のいきいき茨城ゆめ国体では、本市は柔道の会場になります。今後、オリンピックの事前キャンプをする世界のトップアスリートをはじめ、本市から出場する選手たちを、市民とともに応援し、開催が続くこれらの大きな大会を盛り上げ、大会後はそのレガシーを本市の未来へとつなげてまいります。

■筑波銀行に期待すること

旧筑波銀行跡地を地域のために活用し、まちなか再生などの活性化につなげていただければと思います。銀行側の熱意も十分伝わってまいりますので、今後も引き続きご協力をお願いいたします。

取材日：平成30年2月6日

写真提供：龍ヶ崎市